

矢作川がわかれば 多摩川が見えてくる

多摩川がわかれば 矢作川が見えてくる

# 矢作川と多摩川を比べてみる ～見えてくる 川の姿～

## ■比べる視点

### 視点1：砂州の形状の違いを診る

➤ 矢作川は自由砂州、多摩川は固定砂州 が優占している。

自由砂州：直線もしくは比較的直線に近い河川において発生し、下流に向かって自由に移動する砂州。交互砂州・複列砂州が形成される。

固定砂州：河川の平面形状（蛇行形状）に規定され、湾曲部の内岸側に発生して、位置が固定された砂州。

➤ 砂州の人工利用が進んでいるのは多摩川。矢作川は河道内の人工利用が難しい。固定砂州と自由砂州と土地利用について診る。

### 視点2：堤内地の土地利用の違いを診る

➤ 河口部の堤内地土地利用の違いを診る。矢作川は農地が広がる。多摩川は工場が広がる。

➤ 農地と都市がランダムに分布する矢作川。ほぼ一様に都市が分布する多摩川。

➤ 矢作川は山（＝水源地）が近い。多摩川は山（＝水源地）が遠い。

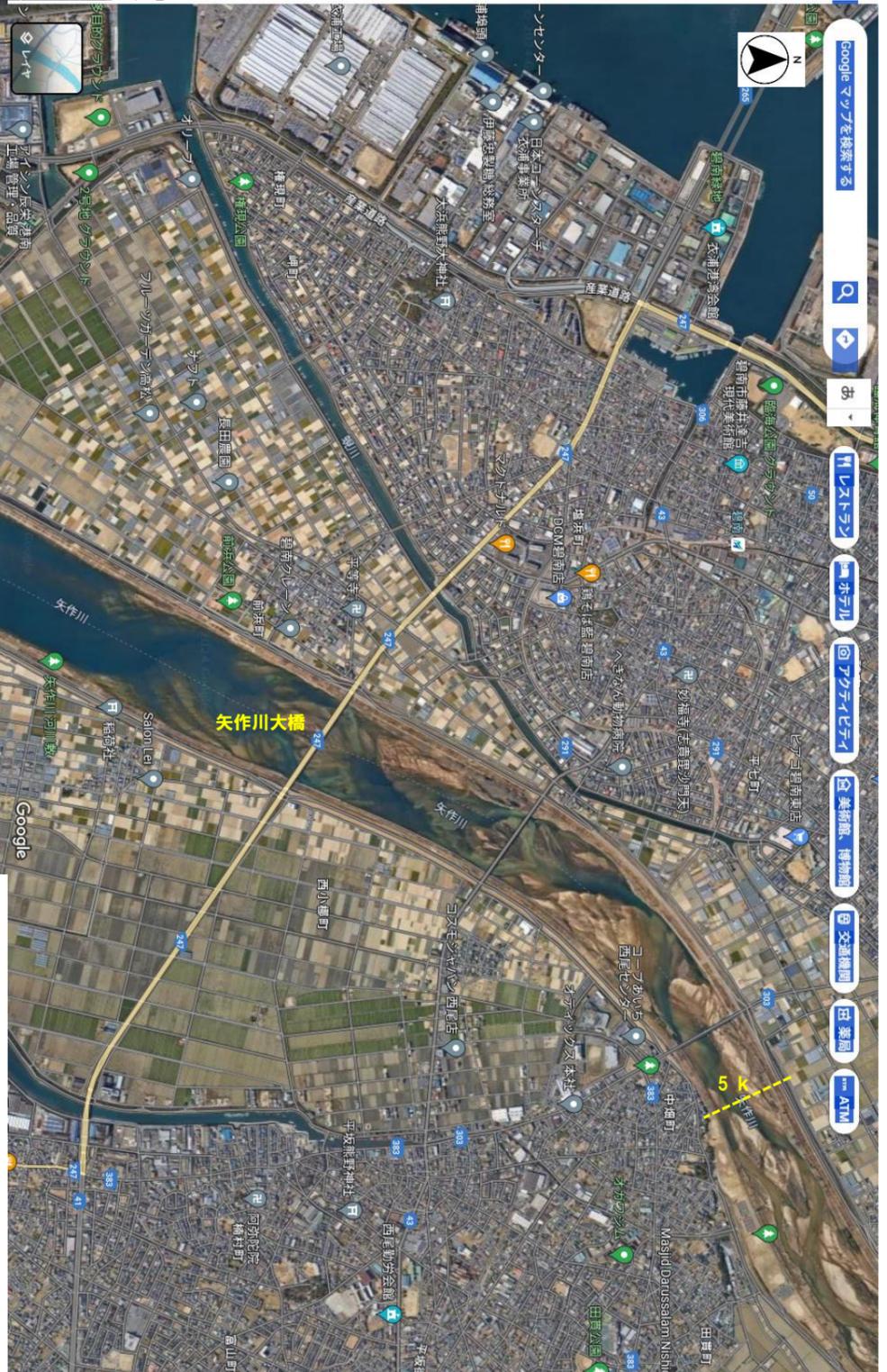
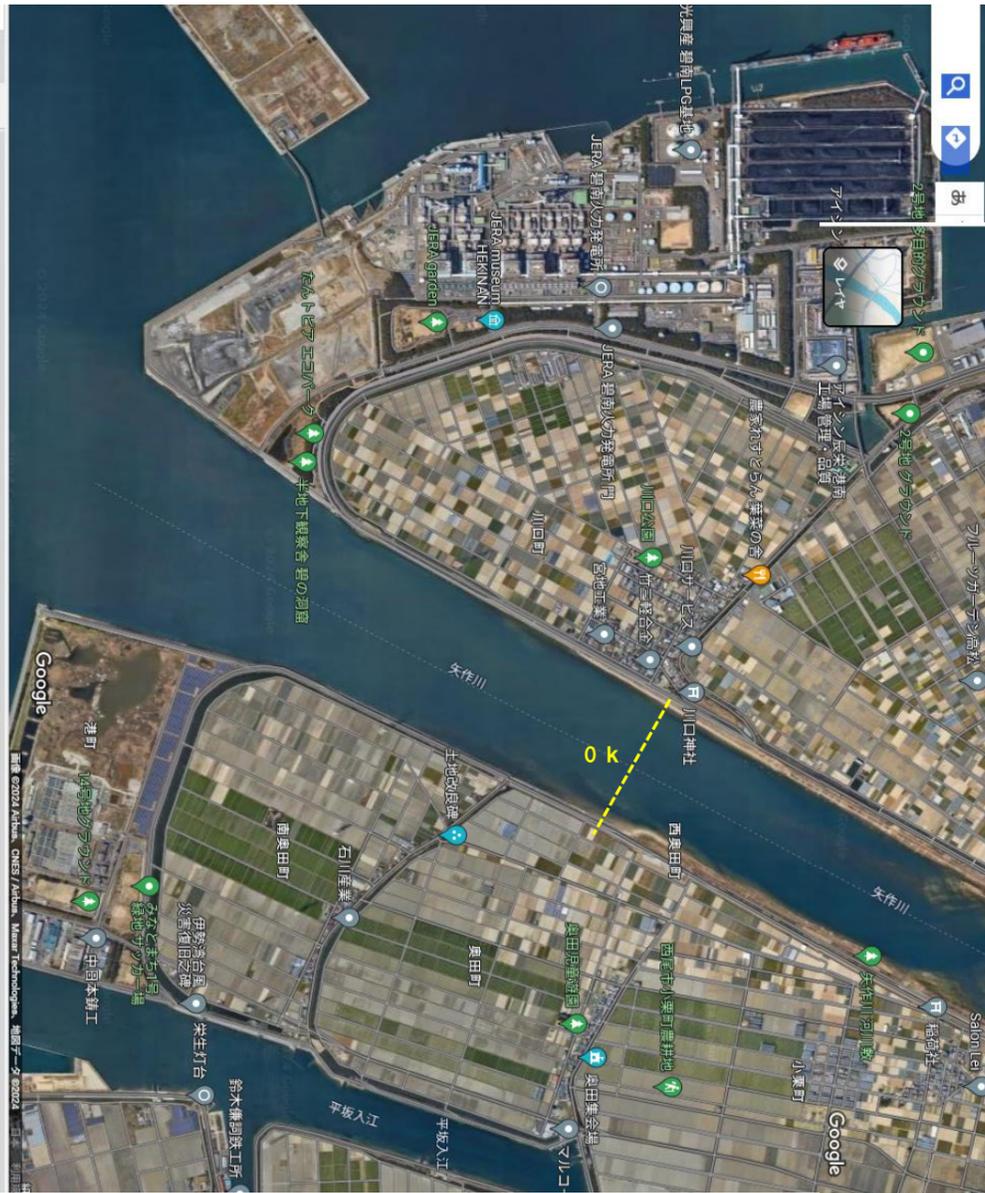
◇ 2つの川を比べてみると、見えなかった川の姿が見えてくるかも。

◇ 河道（堤防と堤防に挟まれた区間）の幅と砂州の形状、川をとりまく地形、水源域の地質などから、元々の川の姿をイメージしてみる。「本来の川はどこ？」という視点から、私たちが生活している場の意味が見えてくるかも。

#### ◆本資料の地図（空中写真）について

- ・ 使用した空中写真：Google マップの空中写真 <https://www.google.co.jp/maps/@34.996224,136.5508096,7412m/data=!3m1!1e3?hl=ja&entry=ttu>
- ・ 空中写真の方向について。左側を下流、右側を上流となるよう方向を変えているので注意。図中に方位マークを付した。写真スケールは同じ。
  - 矢作川の場合：北から南に流れる矢作川では、右に90度回転させている空中写真が多い。
  - 多摩川の場合：西から東に流れる多摩川では、180度回転させている空中写真（南側が上、北側が下）が多い。

## 矢作川 1 (河口部)



矢作川：河口部周辺の提内地側には農地が分布している。河口付近に広大な農地が分布するのは珍しいと思う。矢作川大橋あたりから早くも砂州が分布している。

## 多摩川 1 (河口部)



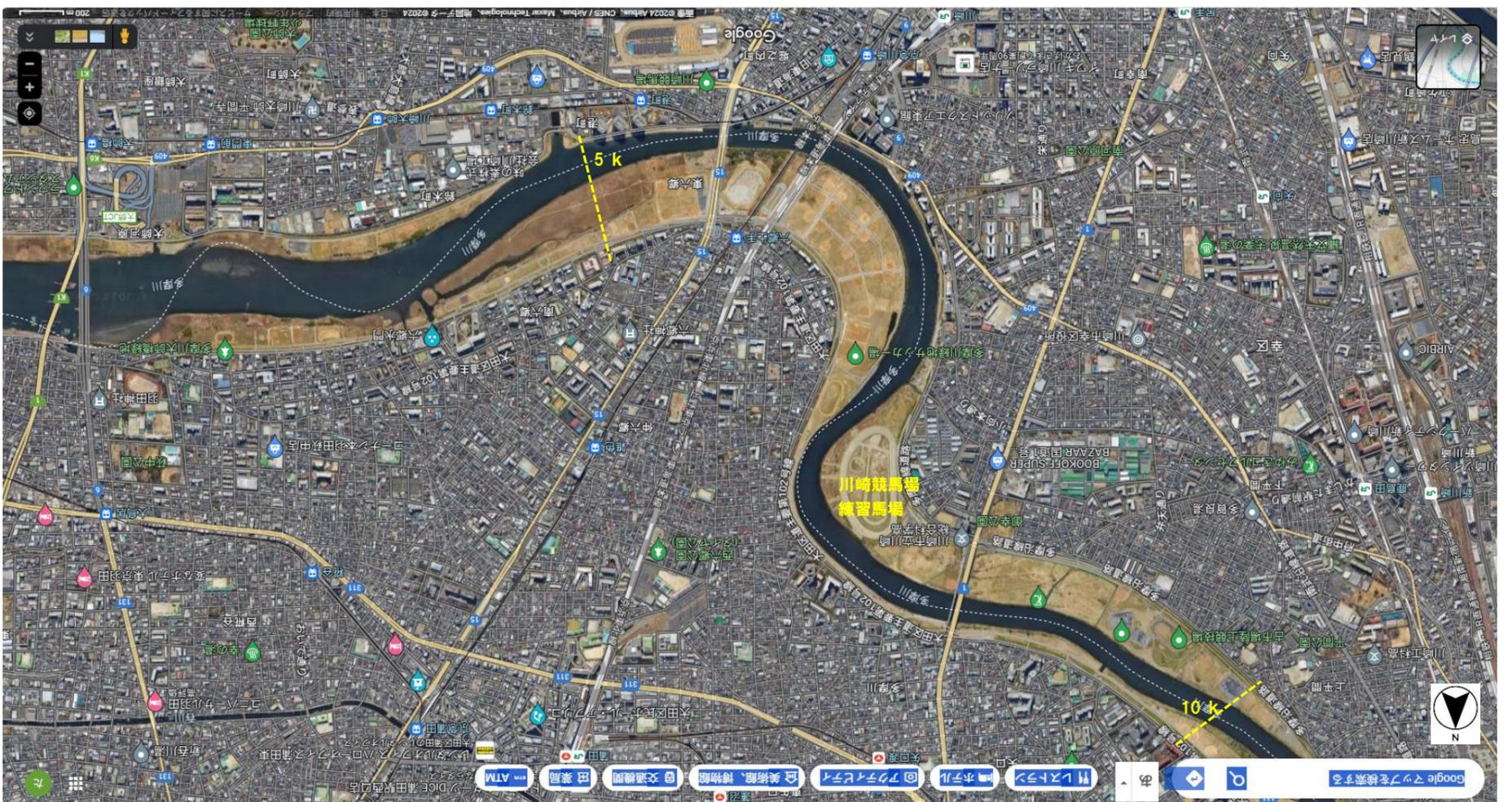
多摩川：河口部周辺の提内地側は羽田空港、工場が分布しており、工業地帯となっている。河口は単調な流れ。

## 矢作川 2



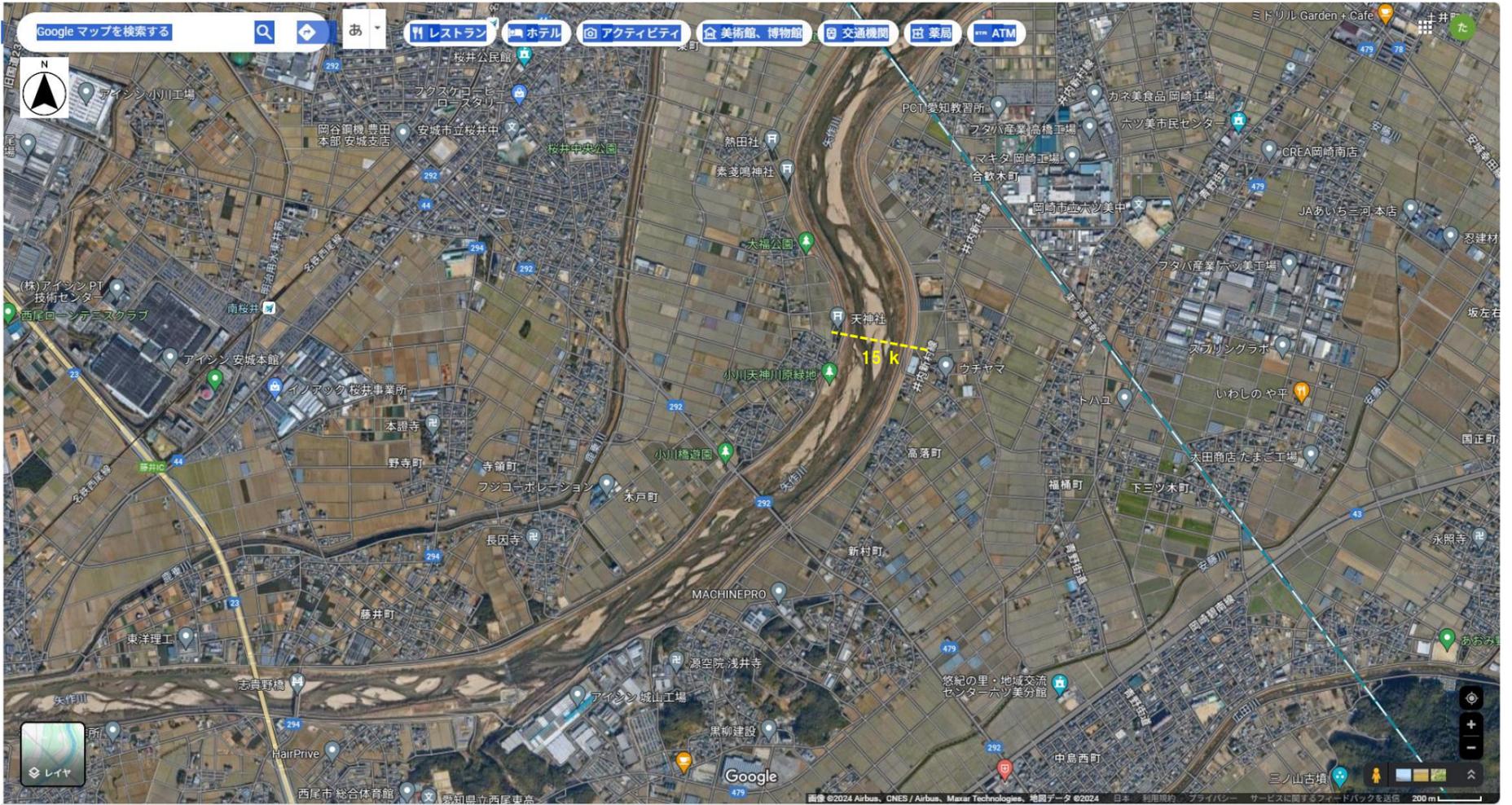
矢作川：複列砂州が形成されており、砂州が動いていることが推察される。また、矢作川は典型的な砂河川であることがわかる。砂州の動きが激しいことから、河川管理が難しい区間と思う。堤内地側は、農地と住宅地が分布している。米津橋あたりの堤内地は、西尾市の市街地が分布している。

## 多摩川 2



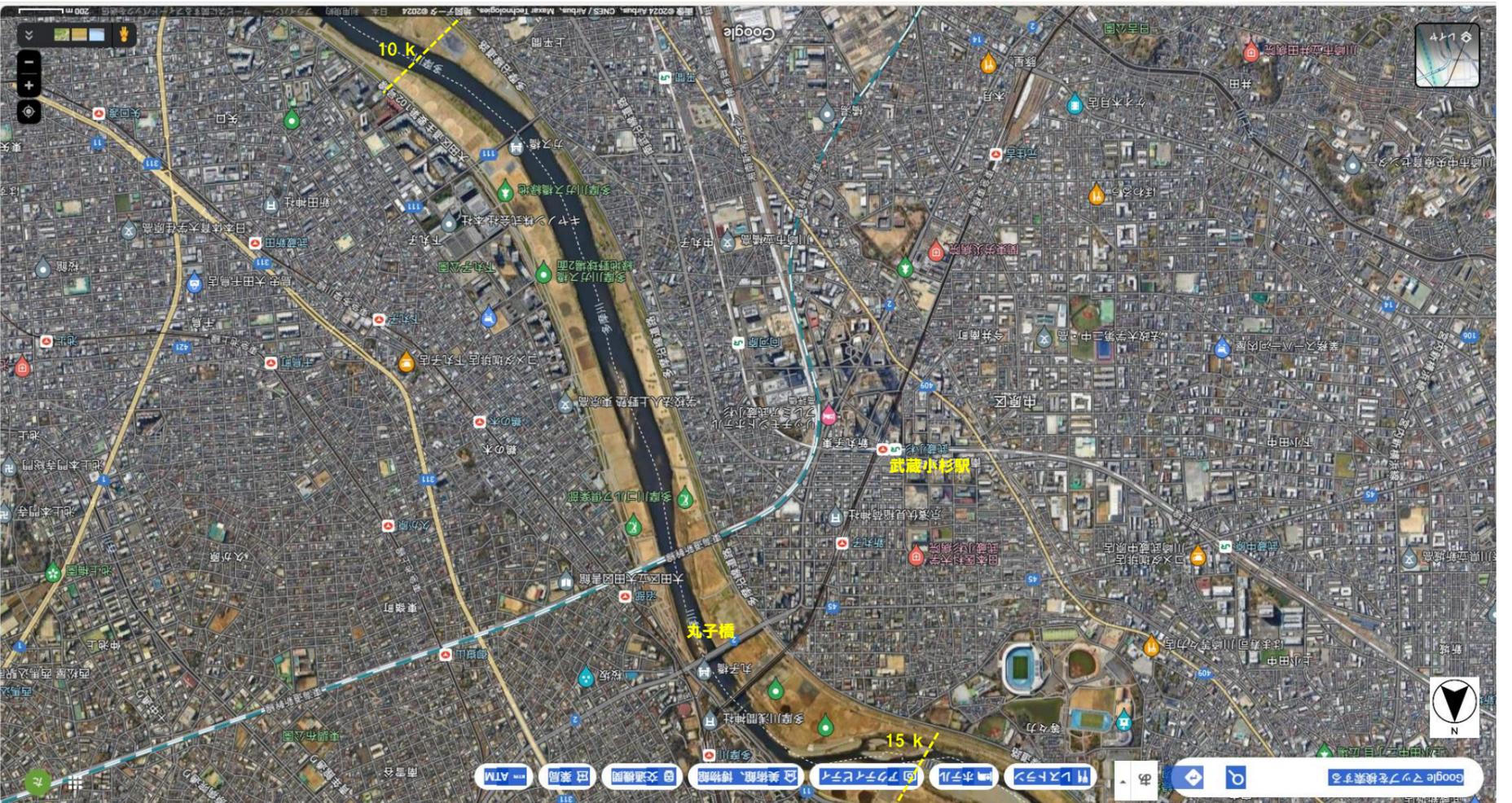
多摩川：河川の蛇行に沿って固定砂州が形成されている。形状が安定している固定砂州は、運動場など公園・緑地として利用されている。その他、川崎競馬場練習馬場もある（\*矢作川の河道では考えられない）。河川の蛇行はあるが流況の多様性、生物多様性は低いと思う。堤内地側は住宅地がぎっしりと分布している。堤防まで住宅地が密集している。

### 矢作川 3



矢作川：複列砂州が形成されており、砂州が動いていることが推察される。また、矢作川は典型的な砂河川であることがわかる。砂州の動きが激しいことから、河川管理が難しい区間と思う。提内地側は、農地と住宅地が分布しており、農地の比率のほうがやや高い感じがする。

### 多摩川 3

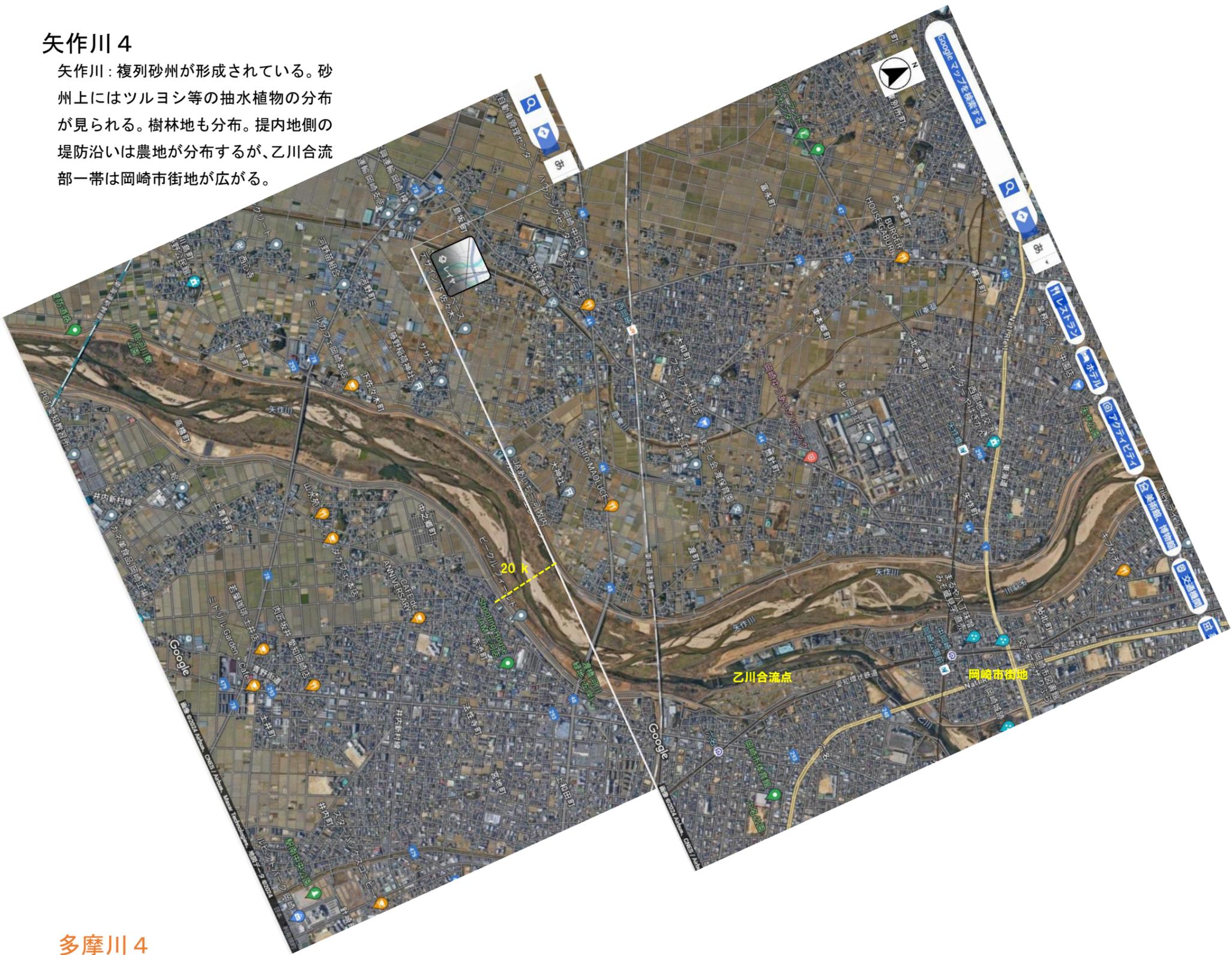


多摩川：自由砂州の形成はほとんどなく、河道に沿って固定砂州が形成されている。流況の多様性は低い。公園など河川敷の利用率が高い。提内地側は住宅地・市街地がぎっしりと分布している。

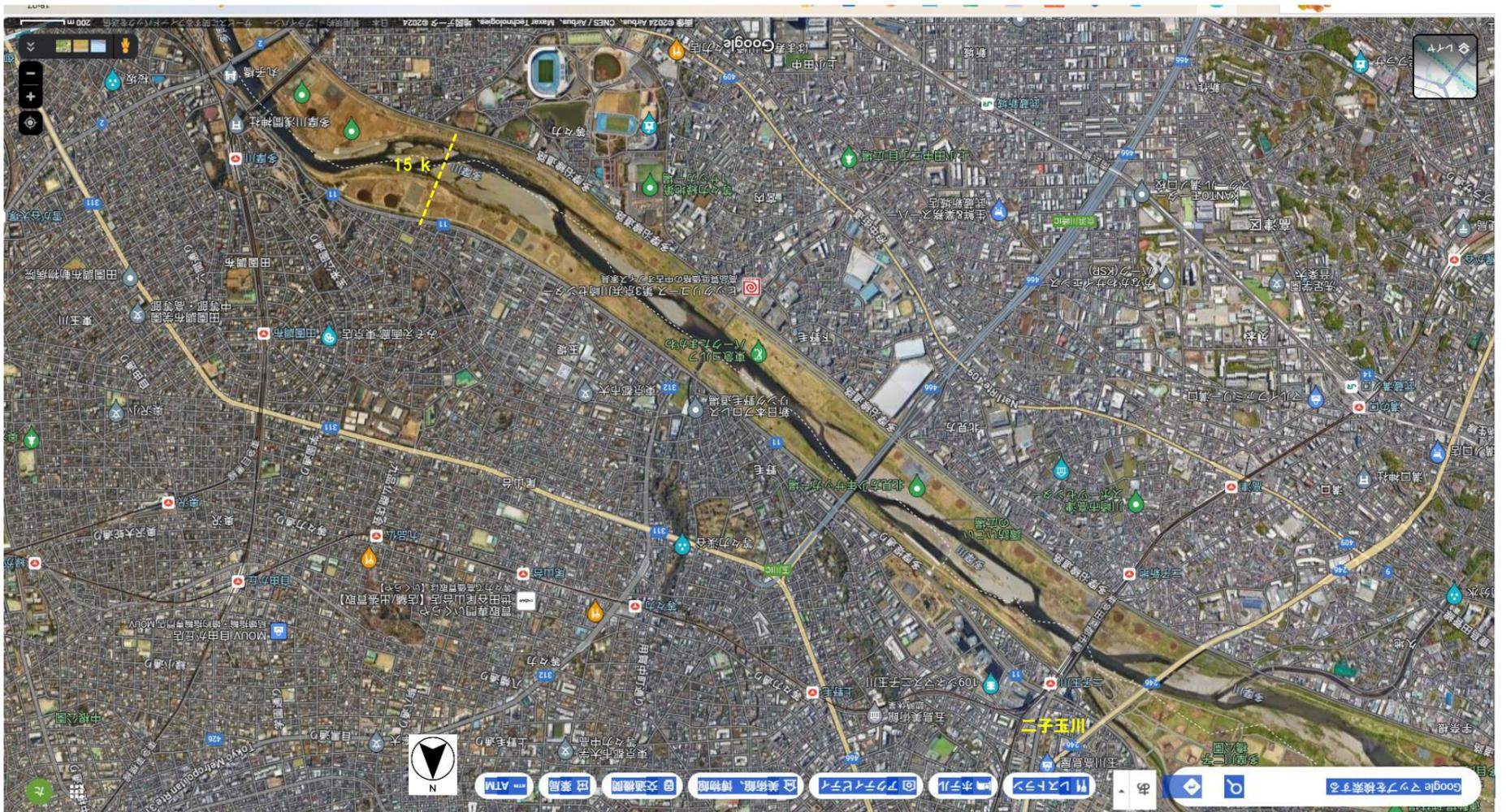
余談だが、映画「シン・ゴジラ」でゴジラは、写真下あたりの武蔵小杉駅から丸子橋付近を通過した。丸子橋はゴジラにより破壊される。

## 矢作川 4

矢作川：複列砂州が形成されている。砂州上にはツルヨシ等の抽水植物の分布が見られる。樹林地も分布。堤内地側の堤防沿いは農地が分布するが、乙川合流部一帯は岡崎市街地が広がる。



## 多摩川 4



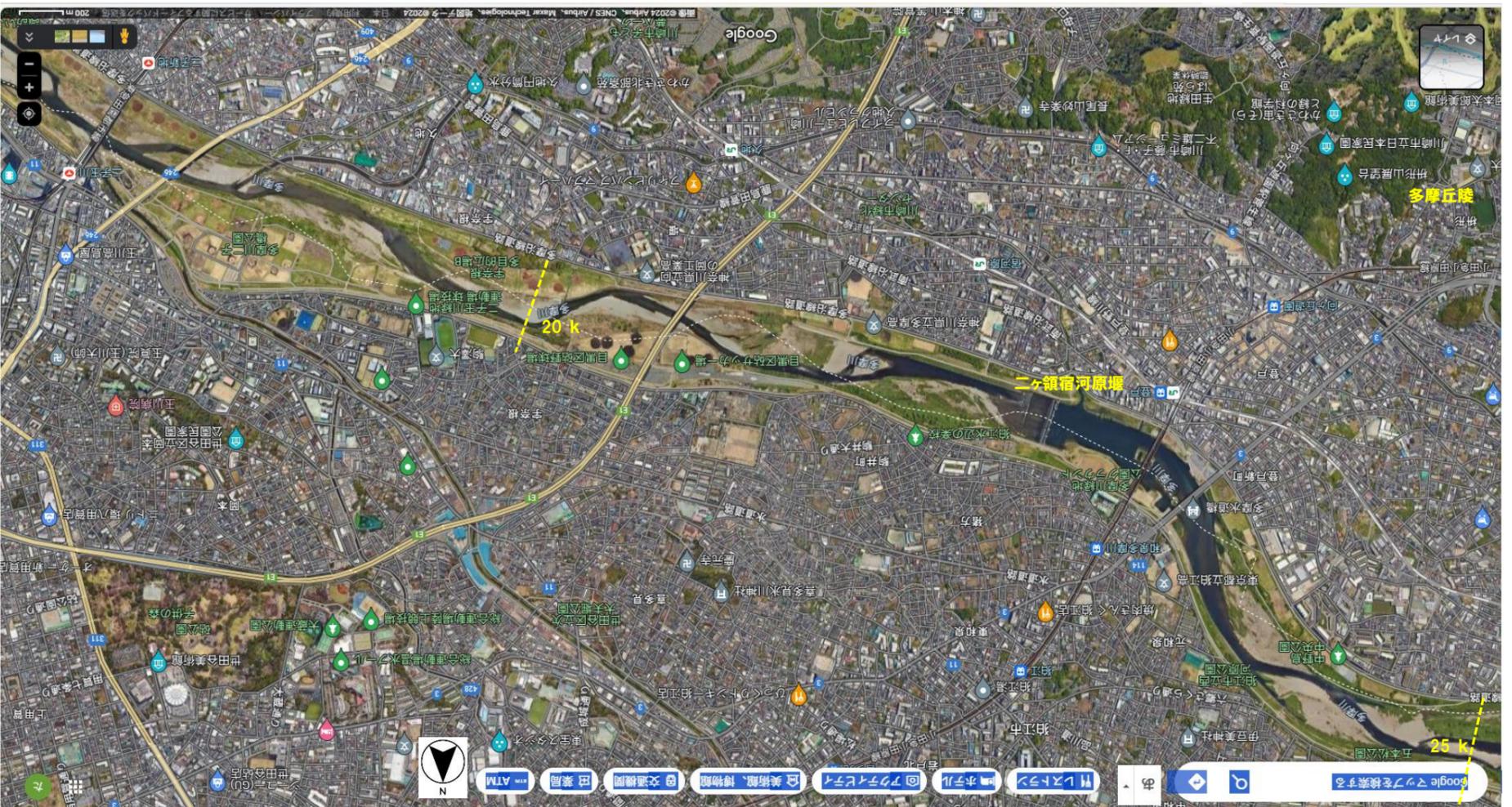
多摩川：ようやく自由砂州がみられはじめた。矢作川の砂州は砂であるが、多摩川の砂州は砂礫のような感じと思う。公園など河川敷の利用率が高い。堤内地側は市街地・住宅地がぎっしりと分布している。二子玉川一帯は再開発により、松沢が世田谷区の昆虫を調査していた昭和62年ごろに比べ都市化が大きく進展している。

## 矢作川 5



矢作川：複列砂州が形成されている。砂州上にはツルヨシ等の抽水植物、樹林地が分布しており、樹木がかなり入ってきている。提内地側は岡崎市の市街地・住宅地がぎっしりと分布するが、愛知環状鉄道橋梁の右岸側、天神橋あたりから上流になると再び農地が優占している。

## 多摩川 5



多摩川：流路の蛇行に合わせて固定砂州がみられる。砂州は砂礫で形成されており、ツルヨシ等の抽水植物が生育している。二ヶ領宿河原堰があり、流れが分断される。公園など河川敷の利用率が高い。提内地側は住宅地がぎっしりと分布している。

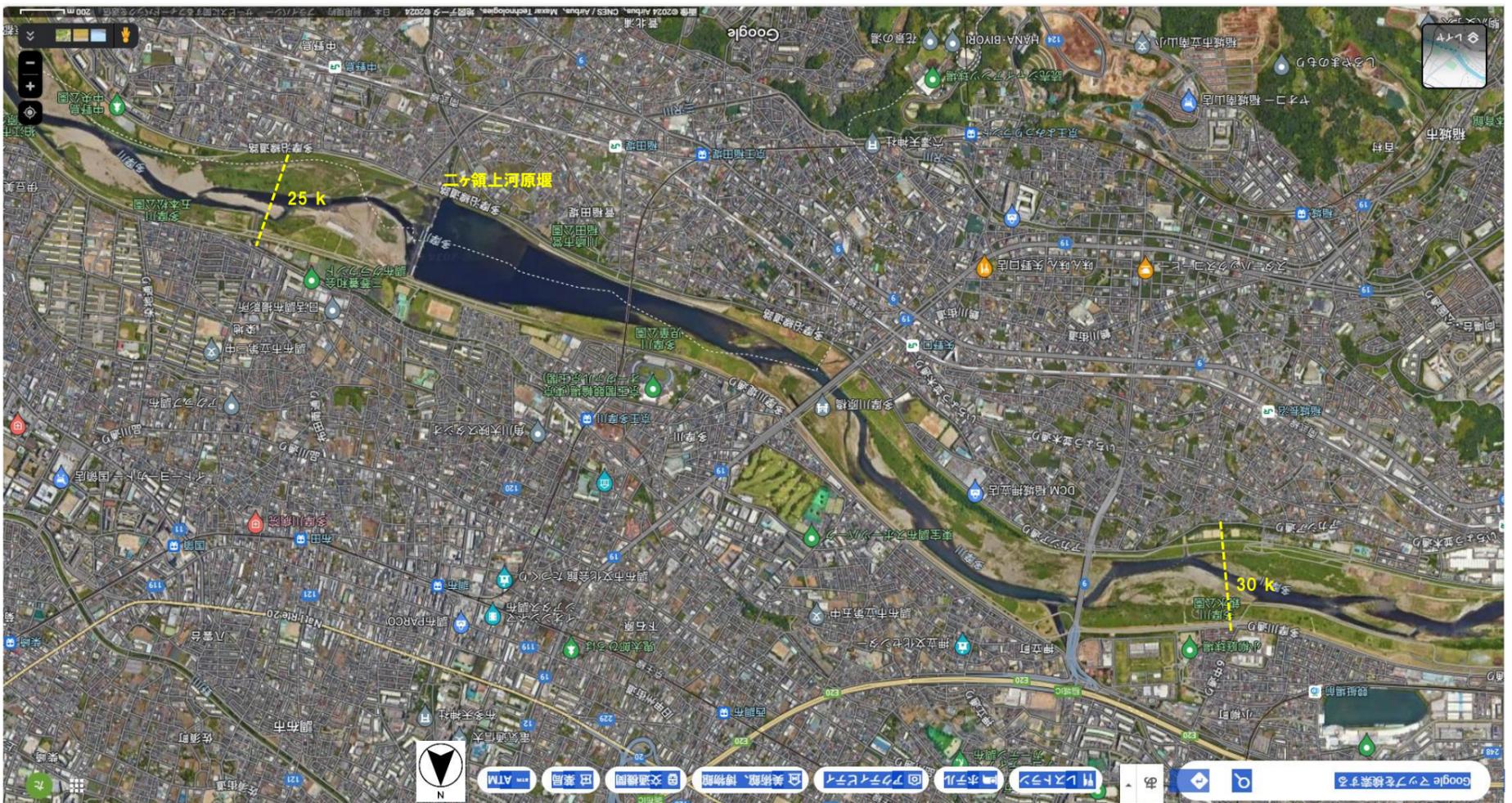
ちなみに、地図の上側のエリア（＝南側のエリア）は多摩丘陵となる。松沢は、川崎市多摩区に2013年から7年間住んでいたもので、年2回の多摩川清掃に参加しており、二ヶ領宿河原堰一帯はよく歩いていた。多摩川の砂州は砂礫のような感じで、矢作川の砂州とはかなり異なる。また、歩いていると、なんか消毒臭（＝プールのような臭い）がする。矢作川では感じない臭い。

## 矢作川 6



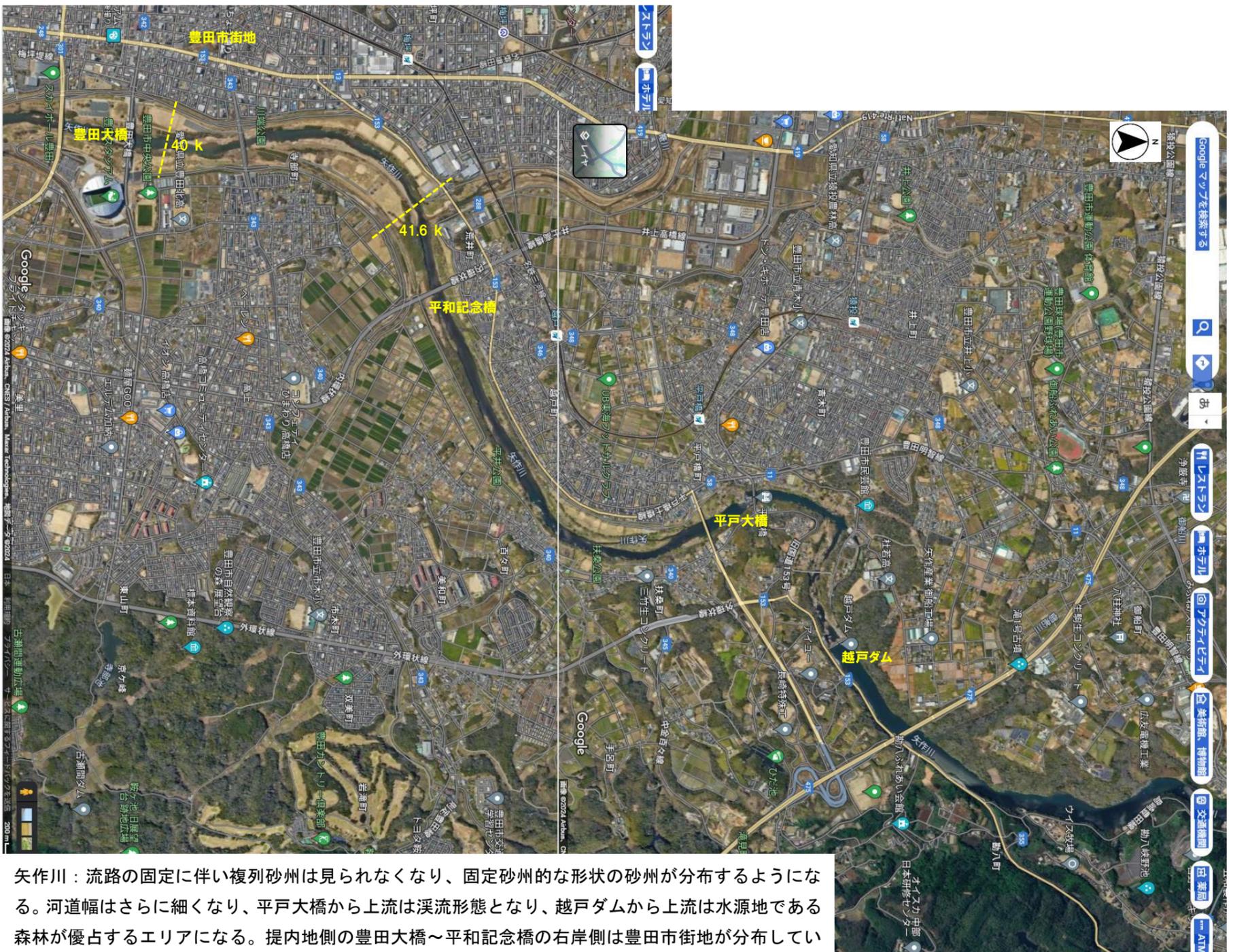
矢作川：明治用水頭首工により矢作川の流況、河川環境が大きく変化しているのがわかる。明治用水頭首工の上下で河川環境のストーリーが大きく異なる。堰より上流には複列砂州はなくなり、下流に比べ河道が細くなり、流路が固定化している。提内地側は豊田市街地が分布しているが、河川沿いは農地が分布し、左岸側はトヨタの森の樹林地が分布している。

## 多摩川 6



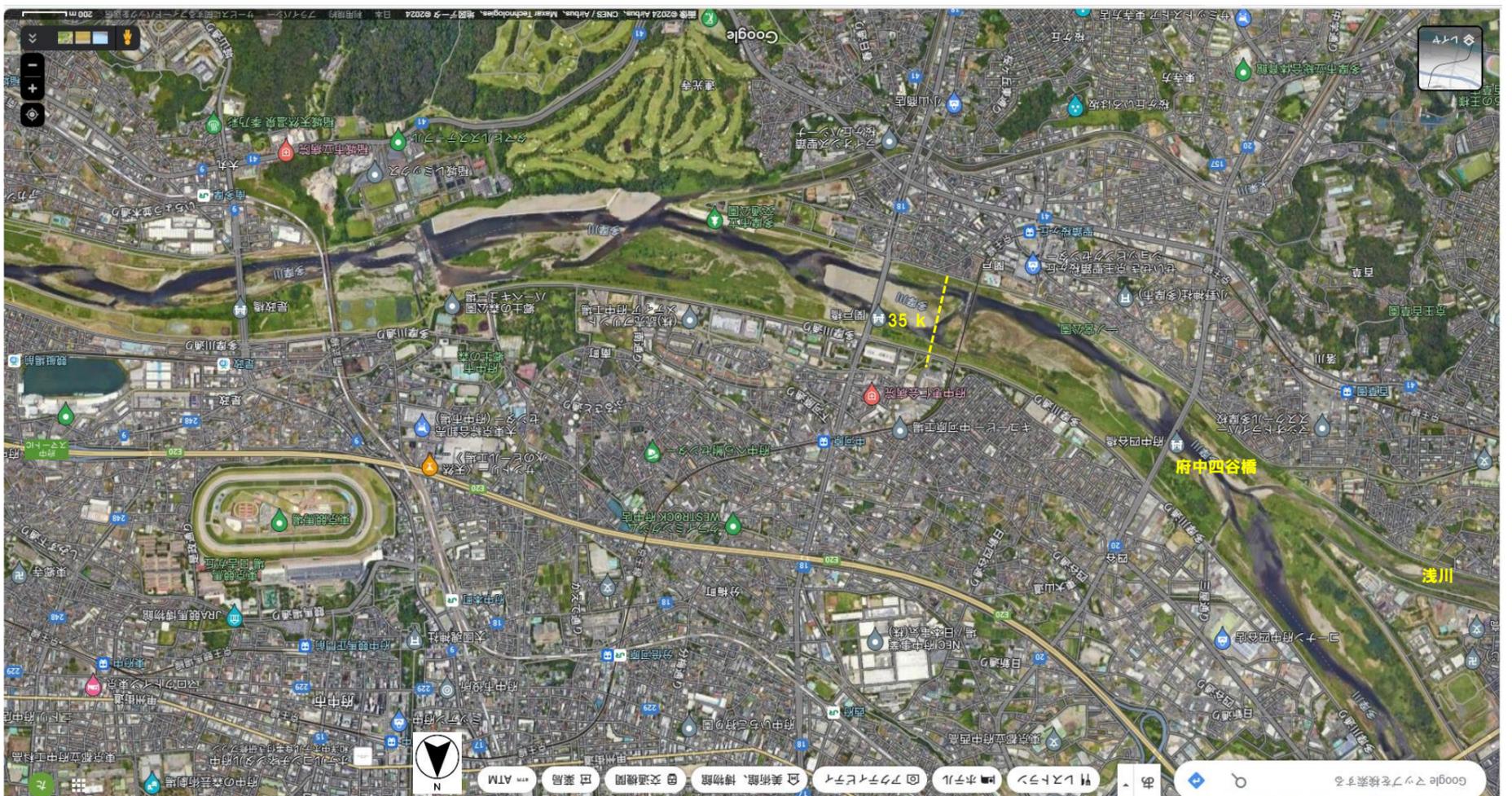
多摩川：二ヶ領上河原堰により河川環境が分断されるが、堰のすぐ上流で再び同じような河川環境となる。河道幅は大きく、その中で砂州が分布し、流路の蛇行がみられる。砂州上は植生帯の分布がみられるが、公園など河川敷の利用率も高い。提内地側は相変わらず住宅地がぎっしりと分布している。矢作川に比べ、河川幅がかなり大きい。ここもまだ多摩川の氾濫原ということになる。

## 矢作川 7



矢作川：流路の固定に伴い複列砂州は見られなくなり、固定砂州的な形状の砂州が分布するようになる。河道幅はさらに細くなり、平戸大橋から上流は溪流形態となり、越戸ダムから上流は水源域である森林が優占するエリアになる。提内地側の豊田大橋～平和記念橋の右岸側は豊田市街地が分布しているが、河川沿いは農地も分布している。豊田市街地と水源域の森林は意外と距離が近い。

## 多摩川 7



多摩川：河道幅は依然として広く、その中で砂州が分布し、流路の蛇行がみられる。砂州上は植生帯の分布がみられ、公園など河川敷の利用率はほとんどなくなる。提内地側は相変わらず住宅地がぎっしりと分布しているが、住宅地の中に農地も分布している。府中四谷橋の上流で浅川が合流する。河川幅がかなり大きいことから、ここもまだ多摩川の氾濫原。水源である森林域は、さらに20km以上上流の59k（青梅市）あたりからとなる。